

# 地域医療学

## 1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在
教授	0 人
准教授	0 人
講師（うち病院籍）	0 人 (0 人)
助教（うち病院籍）	0 人 (0 人)
診療助教	0 人
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	2 人
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人 (0 人)
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	2 人
合計	4 人

## 2 教員の異動状況

山岡 泰治（特任教授）（H19.10.1～H20.7.31 特任准教授；H20.8.1～現職）

原岡 智子（特任助教）（H21.4.1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編 (0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編 (0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編 (0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編 (0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00

## 4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

## 5 医学研究費取得状況

	平成 24 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働省科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1 件	(50 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

(5) 受託研究または共同研究

山岡 泰治 (代表者) 受託研究

「在宅医療を推進するための連携体制の構築に向けた課題抽出」 50 万円

## 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	0 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

### 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	0 件

### 9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

### 10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	0 件

### 11 受賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 中東遠および志太榛原の両医療圏の病院運営の安定化に向けた研究

中東遠医療圏および志太榛原医療圏は、静岡県内でも特に医師不足が深刻化している地域である。研究対象地域の公立病院をはじめとする医療機関などを対象に文献および訪問調査に基づく分析を行い、医療機関の経営の課題や安定的な運営を図る上で障害となっている要因、さらには医療・介護の質の高い連携を図ることによって入院・外来・在宅医療の充実を図るために解決すべき課題を分析した。

また、安全・安心な地域を築くため、東日本大震災の教訓に学び防災・減災に係る医療機関の備えを整備することを目的としたシンポジウム「災害に強い病院を目指した自助・共助のあり方ー災害医療コーディネーターとライフラインの重要性ー」を開催した（浜松市：平成24年5月30日）。

さらに、研究成果のアウトリーチに注力し、こうした地域医療の中核を担う公立病院が将来にわたって医療ニーズに確実に応えるためには経営改革が急務である現状を踏まえ、市立御前崎総合病院および公立森町病院のそれぞれの経営改革委員会に参画し、専門的見地から病院の実態に即した助言・提言を行った。さらに、地域医療を共に育む活動を市民レベルで展開するため、地域医療を考える月間協賛事業としてのシンポジウム（島田市：平成24年9月9日、磐田市：平成24年9月17日）および市民フォーラム（袋井市：平成25年2月9日）を共催して啓発を行った。

### 2. 緊急被ばく医療に関する人材育成

突発的な災害の発生に対して限られた人的資源や医療設備・資機材を使って適切な医療サービスを提供するためには、有機的に連携できる人および組織の整備が欠かせない。さらに、連携体制を構築するにあたっては、地域の特性を踏まえて現有資源を活かすことが大切である。

こうした観点に立ちながら、緊急被ばく医療を対象として、中東遠医療圏および志太榛原医療圏における実効的な連携体制の確立と専門家育成を目指した活動を行った。

## 13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

## 14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

病院運営の安定化に関する研究は、地域の知的拠点であるとともに地域医療の中核的・指導的立場にある本学が、地域の求める専門人材育成や安全・安心な地域形成に貢献することに繋がるものである。

## 15 新聞、雑誌等による報道

- |                          |         |             |
|--------------------------|---------|-------------|
| 1. 「地域医療にやりがい」           | 静岡新聞    | 平成24年4月18日  |
| 2. 「被災地医師が災害への備え講演」      | NHK テレビ | 平成24年5月30日  |
| 3. 「浜松医大でシンポ 災害に強い病院目指す」 | 静岡新聞    | 平成24年5月31日  |
| 4. 「医療の現場体験 高校生、磐田でセミナー」 | 静岡新聞    | 平成24年8月10日  |
| 5. 「磐田でシンポ 地域医療でパネル討論」   | 静岡新聞    | 平成24年9月18日  |
| 6. 「災害に強い街 正しい医療知識持って」   | 静岡新聞    | 平成24年10月31日 |

- |                           |      |                  |
|---------------------------|------|------------------|
| 7. 「災害時医療体制 市民の協力必要」      | 静岡新聞 | 平成 24 年 11 月 4 日 |
| 8. 「放射線の影響 どう考えたらいい? (上)」 | 中日新聞 | 平成 25 年 3 月 7 日  |
| 9. 「放射線の影響 どう考えたらいい? (下)」 | 中日新聞 | 平成 25 年 3 月 21 日 |